

---

## ランチョンセミナー

座長： 米阪 仁雄

近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門 准教授

---

演題名

がんゲノム医療コーディネーター（CGMC）活動内容の紹介

入澤 裕子

東京大学医学部附属病院 ゲノム診療部 がん看護専門看護師

がんゲノム医療コーディネーター（CGMC）は、看護師、薬剤師、臨床検査技師などの医療専門職が担う役割で、主な活動内容は患者さんが安心してがんゲノム医療を受けられるよう、検査前から検査後までを多角的にサポートすることである。具体的には、がん遺伝子パネル検査について、患者さんの理解を促すための説明補助や、結果説明時の精神的支援を行う。検査を受ける前には、検査の目的や限界、二次的所見の可能性など、複雑な内容を分かりやすく伝え、患者さんが納得して検査を受けられるように支援している。検査結果を伝える際は、診察に同席し、その結果が意味することを患者さん自身が理解できるよう説明を補う。また、遺伝性腫瘍の可能性が判明した場合には、遺伝カウンセリングへの橋渡しを行うなど、多職種連携により患者さんとご家族をサポートしている。このような患者支援に加えて、担当医師、病理部、薬剤部、事務部門や遺伝部門と情報を共有し、検査が滞りなく進められるように調整役割も担っている。

本講演では、当院における CGMC の活動と多職種との連携の実際を紹介し、がん遺伝子パネル検査における多職種連携について考察する。